

# 2019年度 事業計画及び収支予算

2019年4月1日から2020年3月31日

## 1. 子ども文庫助成事業

下記表の ①～⑤までの助成活動を行う。

### ①子どもの本購入費助成（現金助成）

・対象

子ども文庫、読み聞かせ団体、子ども文庫連絡会等で子どもたちの読書啓発活動を行っている民間の団体又は個人、及び実質的に草の根運動とみなされる団体。

・内容

図書等の購入、充実を目的とした購入費を1件当たり 30万円助成。  
2018年度とほぼ同数の42件（12.6百万円）の助成を計画している。

### ②病院・施設こども読書活動費助成（現金助成）

・対象

病院内で長期療養中の子どもたち、障害者施設、養護施設等の子どもたちに対し読書啓発活動を行っている民間の団体又は個人、及び実質的に草の根運動とみなされる団体。

・内容

子ども達が読書を楽しむための図書等の購入、及び障害がある子どもたちに対する読書支援機器等の購入、及び図書作成のための費用を含み、30万円助成。  
3件（90万円）の助成を計画している。

### ③子どもの本 100冊助成（図書現物助成）

・対象

上記①、②共通

・内容

当財団が選書した100冊の児童書セット（小学校低・中・高学年別の3種類）のうち1セットを贈呈する。  
2017年度は、100冊の内、40冊までを他のセットの本から選べる方法に加え、2000年以降に出版された図書を中心とした150冊の新しいリストを加えた。  
2019年度も、2018年度と同数の助成を計画している。  
予定金額495万円（1セット当たり約15万円のセット 計33件）

### ④子ども文庫功労賞

・対象

子ども文庫を永年に亘り（概ね20年以上）運営されてこられた個人で、こどもの読書啓発活動に貢献されてこられた方。第三者のご推薦による申し込み。

・内容

1名につき 30万円と、副賞約6万円。  
予定金額 72万円（原則2名）

### ⑤その他読書支援

シャンティ絵本を贈る活動

・内容

シャンティ国際ボランティア会が行っているカンボジア、ラオス、アフガニスタンなど絵本が不足している東南アジア地域に、日本語の絵本を届ける運動。東日本大震災の被害地の子どもたちや、伊藤忠商事の社員とともに活動に参加し、2018年度は、930冊を贈った。2019年度も、930冊贈る計画である。

被災地読書支援

・内容

公益社団法人全国学校図書館協議会にご協力頂き、被災地で児童書を必要としている小学校に子どもの本100冊図書セットを寄贈する。  
2018年度は、岩手・宮城・福島の10小学校に対し寄贈した。又、西日本豪雨災害で被害を受け図書を必要としている、岡山県・愛媛県の学校4校に対し11セットの図書を寄贈した。  
2019年度は、岩手・宮城・福島等の小学校、及び他の被災地の学校、10校への図書の寄贈を計画している。

以上

## 2. 電子図書普及事業

### 2019年度作品数と寄贈先

2010年度に開始した本事業は、10年目を迎える。この間「わいわい文庫」として製作し、合計の作品数は505となった。2018年度は1,305ヶ所（2019年2月末現在）に寄贈した。2019年度は、まず5月に約1,200ヶ所に配布する。2018年度は83作品を制作したが、2019年度は高学年向けの作品を増やし、70作品を制作する計画である。

初年度（2010年度）に製作した作品は、2011年度に、全国の特別支援学校及び大規模都市（人口20万人以上）の公共図書館、合計1,154ヶ所に寄贈したが、受領書の返送は36%にとどまり、2012年度の配布数は572ヶ所であった。年を重ねるごとに「わいわい文庫」への認知度も高まり、最近では一般学校や公共図書館からの寄贈希望が増加している。

配布年度	(2月末現在)				
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
作品数	61	66	70	74	83
寄贈先	1,022	1,121	1,231	1,305	1,400 (見通し)

### 2019年度重点施策

- ・引き続き、電子図書の制作と共に、普及のための広報・啓蒙活動に力点を置く。
- ・CD配布枚数増加に伴う費用増加に対応する為、電子配信による電子図書館サービスの移行を検討する。

#### ●制作

- ・子どもたちの多様な興味関心に対応できる選書
- ・効率的な制作方法と業務委託内容の検討
- ・出版社や様々な団体への協力依頼
- ・都道府県立図書館との共同事業展開〔日本昔話の旅〕  
(現在、45都道府県の作品が完成)

#### ●広報・啓蒙

- ・わいわい文庫の活用例を記載した小冊子【わいわい文庫活用術⑧】の編集
- ・読書バリアフリー研究会の開催（全国8ヶ所を予定）
- ・障害者教育研究会や福祉機器展への参加

2019年度計画は、配賦数の増加に伴い、2018年度見通しより製作費用その他費用共若干増加する計画である。

以上

# 収支予算書(損益ベース)

2019年 4月 1日から2020年 3月 31日まで

公益財団法人 伊藤忠記念財団

(単位：千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
経常収益計	112,861	110,221	2,640	
(2) 経常費用				
① 事業費				
①-1 子ども文庫助成事業費	55,448	55,062	386	
①-2 電子図書普及事業費	38,933	38,475	458	
(事業費計)	( 94,381 )	( 93,537 )	( 844 )	
② 管理費	18,156	15,259	2,897	
経常費用計	112,537	108,796	3,741	
当期経常増減額	324	1,425	△ 1,101	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計			0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	324	1,425	△ 1,101	
一般正味財産期首残高	4,197,462	4,196,037	1,425	
一般正味財産期末残高	4,197,786	4,197,462	324	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	△ 3,088	3,088	
指定正味財産期首残高	320,940	324,028	△ 3,088	
指定正味財産期末残高	320,940	320,940	0	
III 正味財産期末残高	4,518,726	4,518,402	324	